

令和2年度 学校評価報告（集計結果と考察・改善策）

【総合判定】 A(平均肯定率90%以上) B(平均肯定率80%以上) C(平均肯定率70%以上) D(平均肯定率70%未満)

【肯定率】 4段階評定の4と3の肯定的評価の割合(%)

【評定】 4:とても思う 3:やや思う 2:あまり思わない 1:全く思わない

評価領域	評価指標	総合判定	平均肯定率	対象	肯定率	評定(%)				考察と改善策
						4	3	2	1	
思いやりのある優しい児童	児童は、学校に楽しく通っている。	A	97	児童	97	75	22	2	0	児童は、概ね楽しく学校に通い、学校生活において、他者を思いやり仲よく活動できている。教師が、児童の様子をしっかりと捉え、一人一人を大切にされた対応をしているからだと考える。 挨拶については、C評価である。コロナ禍において挨拶の声が出しにくかったことも考えられるが、人と人との関わりの基本としての挨拶がしっかりとできるような手立てを考え、粘り強く指導を継続する必要がある。
				教職員						
				保護者	96	57	39	3	1	
	児童は、挨拶ができる子に育っている。	C	78	児童	80	39	41	16	4	
				教職員	67	17	50	33	0	
				保護者	86	31	55	13	1	
	児童は、友達を思いやり、仲よく活動できている。	A	96	児童	96	71	25	3	0	
				教職員	95	14	81	5	0	
				保護者	96	49	47	4	1	
	教師は、児童の困っていること等に対して、よく話を聞き適切に対応している。	A	90	児童	96	79	17	2	2	
				教職員	82	11	71	18	0	
				保護者	91	44	47	8	1	
正しく自ら考える児童	児童は、家庭学習の習慣が身に付いている。 学年×10分+10分 (例)6年生・・・6×10+10=70(分)	C	75	児童	85	45	40	13	2	「分かる授業」に関して、児童・教職員・保護者の肯定率は、A評価である。日頃から児童の学力の定着と向上に努めている結果であると考え。しかしながら、十分に児童に学力が定着しているとは言えない。定着が不十分な児童への支援や関わりを強化し、家庭学習の習慣化や読書量を増やす手立てなどを考える必要がある。家庭への具体的な啓発を継続するとともに、教職員の研修を充実させていく。
				教職員						
				保護者	64	22	42	29	7	
	児童は、読書に親しんでいる。	C	72	児童	80	46	34	16	4	
				教職員	83	25	58	17	0	
				保護者	52	21	31	37	11	
	児童は、学年に応じた基本的な学力が身に付いている。	B	86	児童	91	43	48	8	1	
				教職員	88	8	80	12	0	
				保護者	78	29	49	19	3	
	教師は、分かる授業を工夫している。	A	94	児童	97	81	16	2	1	
				教職員	92	0	92	8	0	
				保護者	94	44	50	6	0	

根気よくやり抜く児童	児童は、「早寝・早起き・朝ごはん」を実践し、健康な子に育っている。	B	87	児童	84	48	36	12	4	「早寝・早起き・朝ごはん」の定着については、保護者の協力が不可欠である。引き続き、学校だより等により家庭への啓発を継続する。「手伝いや仕事」の肯定率は、C評価である。学校の教育活動の中で、十分な活動を保障することができにくかったことが考えられる。自分から進んで他者のためになることができるよう「ありがとうの輪」を広げていく。「いじめの予防や早期発見」については、今後もきめ細かな配慮を心掛け、児童が安心して学校生活を送れるようにする。
				教職員	92	4	88	8	0	
				保護者	85	38	47	14	1	
	児童は、手伝いや仕事ができる子に育っている。	C	76	児童	85	43	42	13	2	
				教職員	67	17	50	33	0	
				保護者	77	23	54	21	2	
	学校は、いじめの予防や早期発見に誠実な対応をしている。	A	92	児童	97	81	16	2	1	
				教職員	89	11	78	11	0	
				保護者	90	31	59	9	1	
管理・教職員	教師は、児童一人一人を大切にされた教育活動を行っている。	A	95	児童	98	86	12	1	0	「管理・教職員」については、3項目ともにA評価である。引き続き個を大切にされた教育活動を充実させるとともに保護者への丁寧な対応に心掛ける。「新型コロナウイルス感染症対策」は、教職員の負担増につながってはいるが、協力・協働して対応できている。行事等に関しては、「教職員の働き改革」の面からも削減できるものは削減しながら、教育目標の達成に向けて新たな教育活動を充実させる。
				教職員	96	23	73	4	0	
				保護者	91	46	45	8	1	
	学校は、新型コロナウイルス感染症対策を適切に行い、授業や学校行事（運動会や参観日等）を行っている。	A	97	児童	99	88	11	1	0	
				教職員	96	52	44	4	0	
				保護者	97	47	50	3	0	
	学校は、保護者からの連絡や相談に対して、誠実で丁寧な対応をしている。	A	98	児童						
				教職員	100	44	56	0	0	
				保護者	95	47	48	4	1	
連携・情報提供	学校と家庭との連携・協力が図られ、信頼関係ができています。	A	97	児童						「信頼関係」については、A評価である。保護者との信頼関係が築けていると考えられる。「地域との関わりある活動」については、コロナ禍においてできることを各学年で工夫して実施できている。今後も内容を吟味しながら教育活動を実施する。情報発信については、HPの掲載形式を刷新し、今後も積極的に活動の広報や情報の提供ができるようにする。
				教職員	100	8	92	0	0	
				保護者	94	36	58	5	1	
	学校は、児童が地域の人や自然や文化と関わり、郷土を誇りに思える教育活動を行っている。	B	88	児童	97	79	18	2	1	
				教職員	73	18	55	27	0	
				保護者	95	37	58	4	1	
	学校は、授業公開や学校・学年だより、HP等による情報を積極的に発信している。	A	92	児童						
				教職員	88	12	76	12	0	
				保護者	95	42	53	4	1	
その他	家庭で、学校のことについてよく話をしている。	B	88	児童	87	56	31	12	2	学校で体験したことや学んだことが、児童から直接保護者の耳に入れば更なる学校への信頼度が高まると思われる。児童が安心して学校生活を送られるよう個人的に配慮の必要な児童には、今後も家庭連絡を密にし、連携して指導・支援を継続していく。
				教職員						
				保護者	88	40	48	11	1	
	安心して通わせることができる（通える）学校である。	A	95	児童	95	80	15	4	1	
				教職員						
				保護者	94	46	48	5	1	

アンケート項目		
保護者	教職員	児童
1		1
2	13	2
3	5	3
9	7	9
4		4
6	4	6
5	1	5
10	2	10

7	10	7
8	13	8
12	6	14
11	23	11
13	16	15
14	24	
15	26	
16	12	16
17	27	
18		17
19		18